

# 令和元年 労働災害発生状況の概要【社会福祉施設】

## 1 死亡災害発生状況（図1）

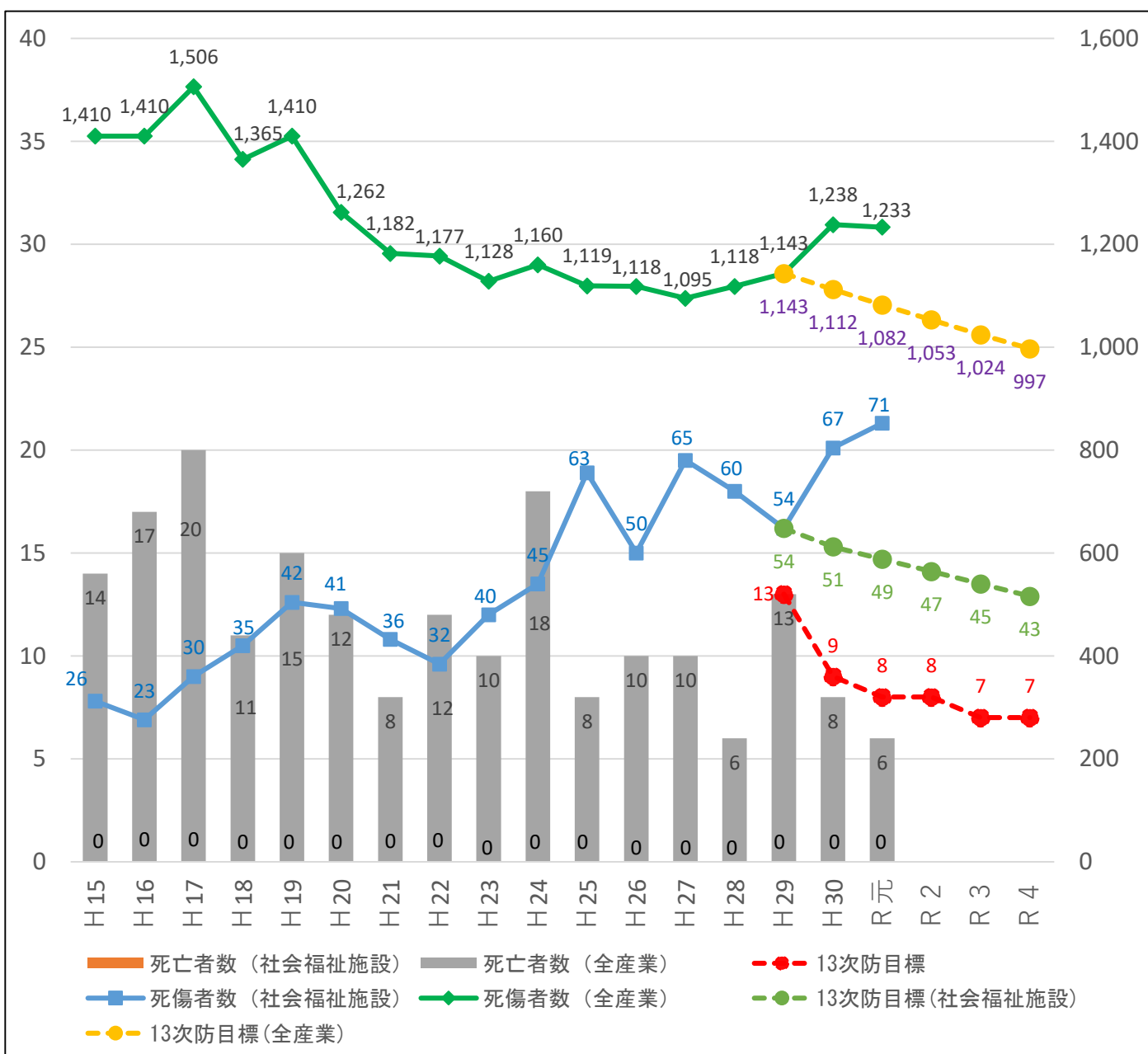
社会福祉施設の労働者について、死亡災害は発生していない。

## 2 死傷災害発生状況（図1）

社会福祉施設の死傷者数（休業4日以上）は、増減を繰り返しながらも、増加傾向が著しい。

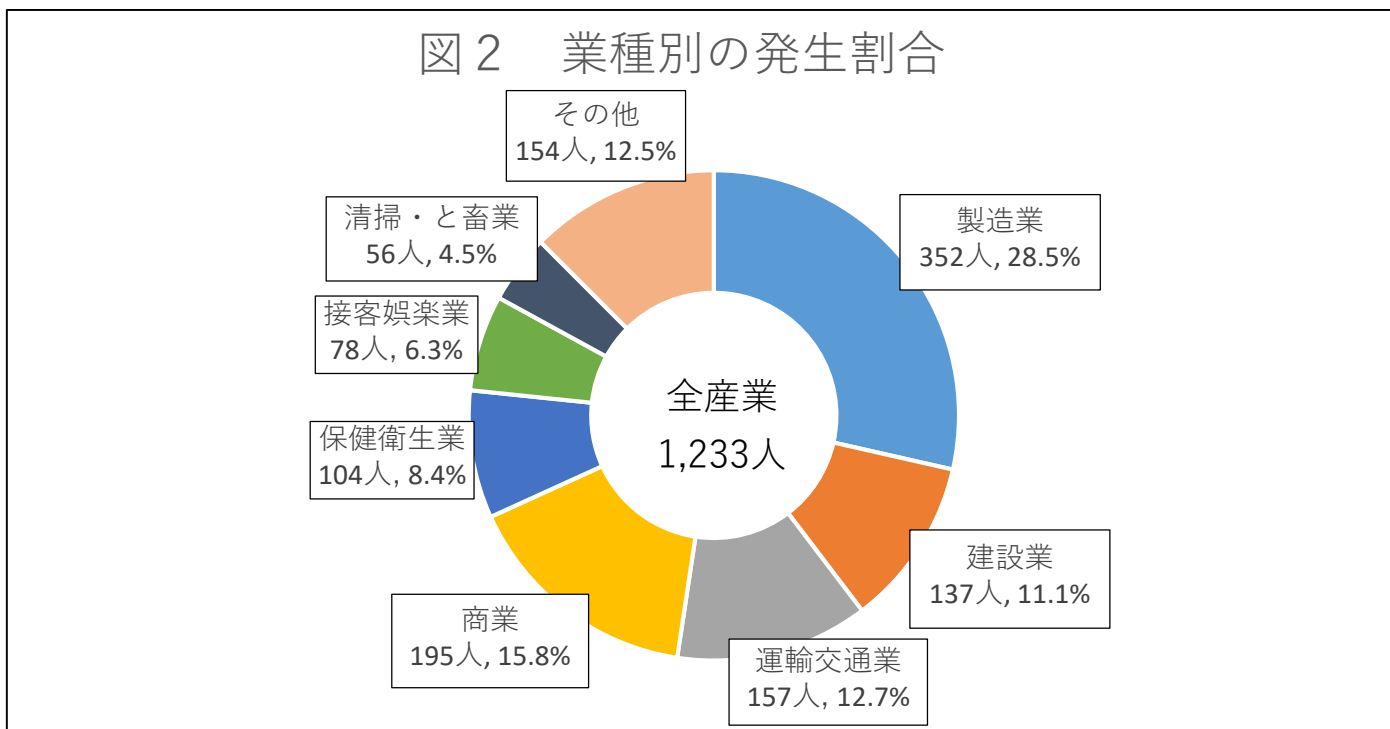
令和元年の死傷者数は71人で、平成30年と比較すると4人(6.0%)増加し、過去最多となった。

また、第13次労働災害防止計画の令和元年の目標値（49人）と比べると+22人（+44.9%）となっており、労働災害の減少に向けた取組が重要である。



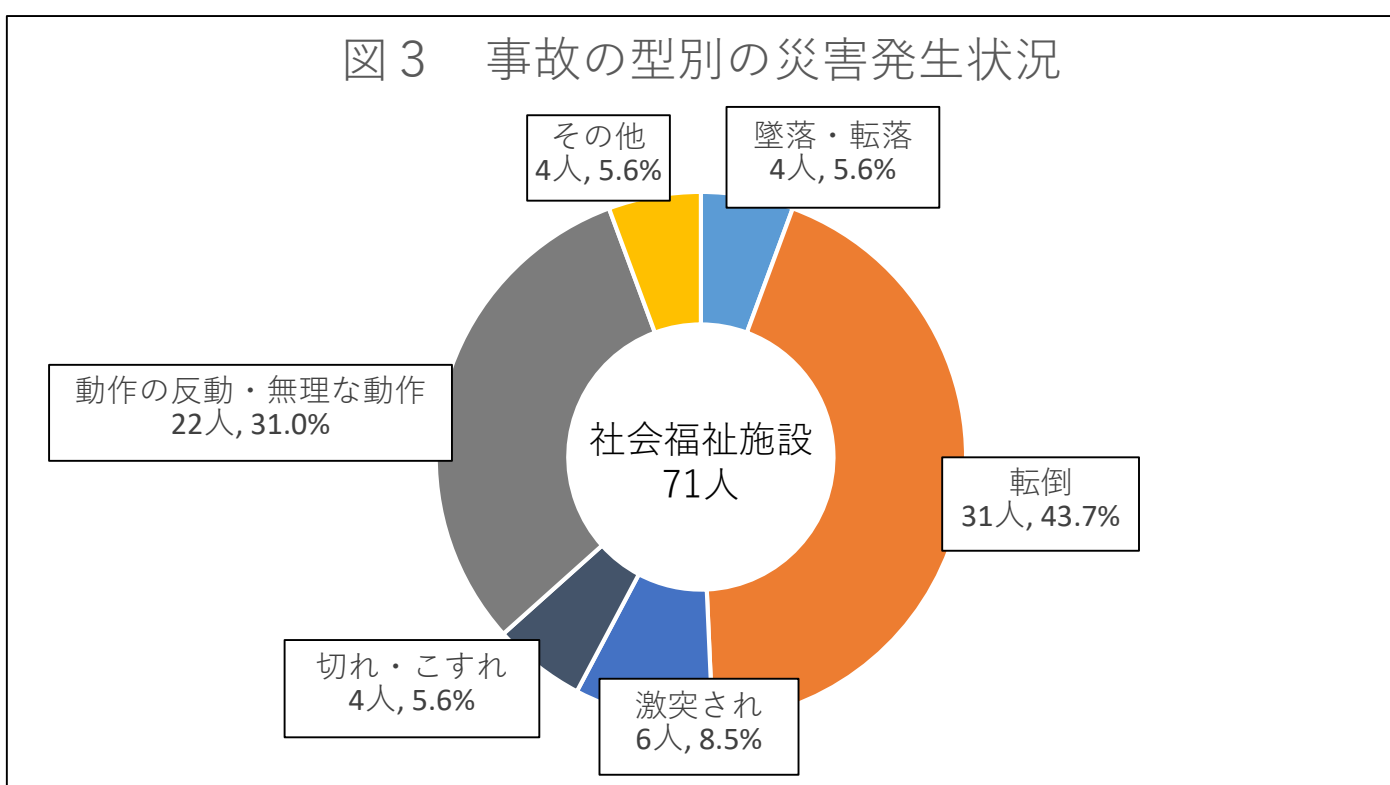
### 3 業種別【大分類】の災害発生状況（図2）

保健衛生業が全産業に占める割合は、8.4%（104人）となっており、その内、社会福祉施設は71人（全産業の5.8%）を占めている。



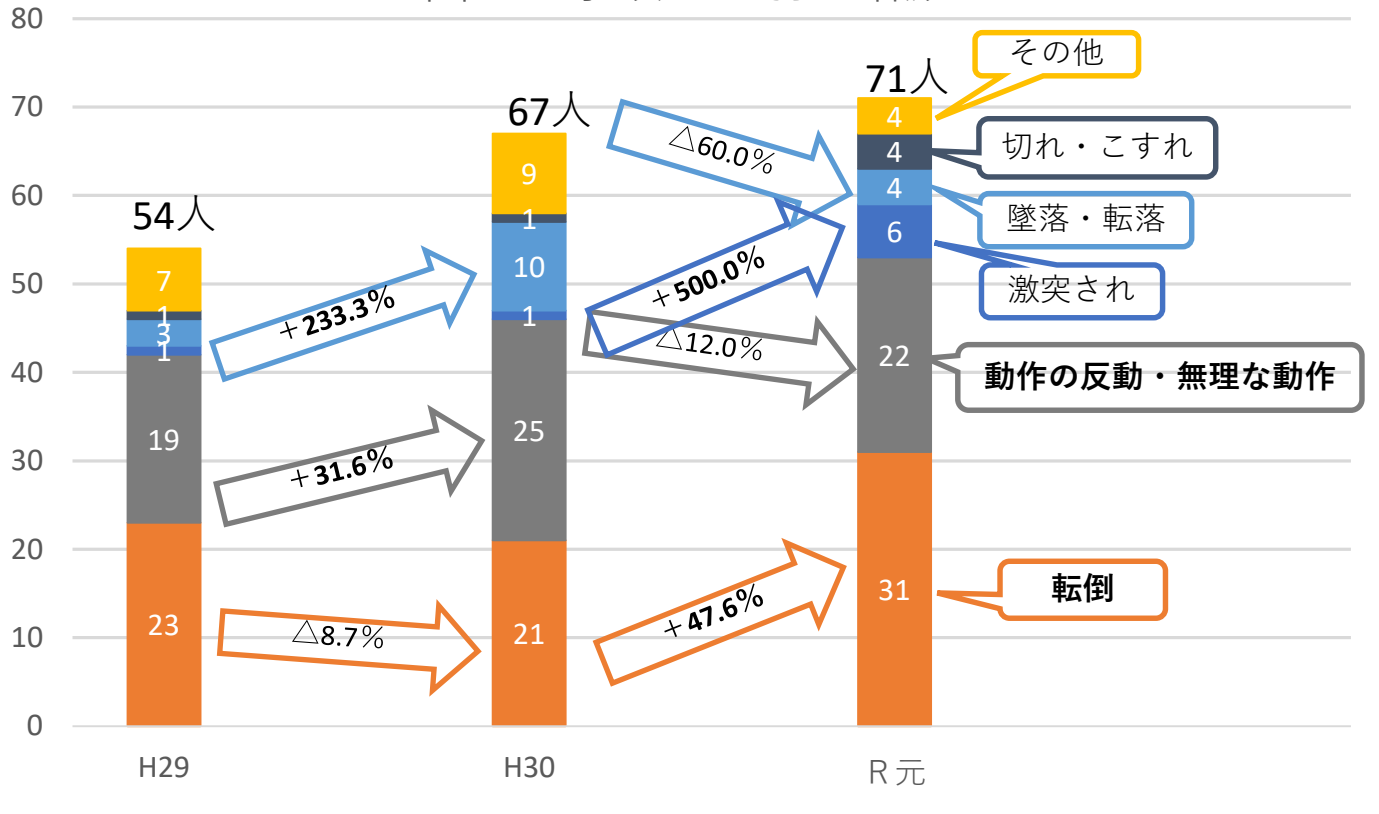
### 4 事故の型別の災害発生状況（図3）

社会福祉施設（71人）では、「転倒」が最も多く、全体の43.7%（31人）を占めている。次いで、「動作の反動・無理な動作」が22人（31.0%）となっており、この2つの型で、全体の74.6%（53人）を占めている。



平成30年と比較すると、「動作の反動・無理な動作」は-3人（-12.0%）と減少しているが、「転倒」は+10人（+47.6%）と大幅に増加している。（図4）

図4 事故の型別の増減

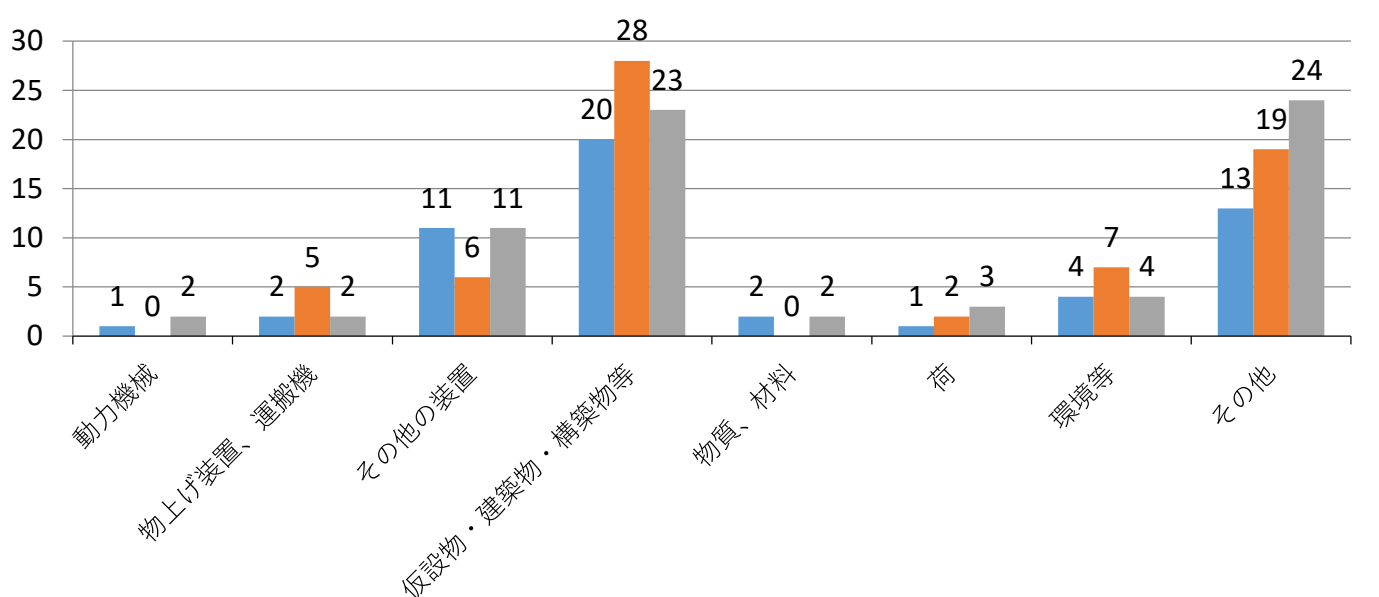


## 5 起因物別の災害発生状況（図5）

「その他」が24人（33.8%）、「仮設物・建築物・構築物等」が23人（32.4%）で、この2つの起因物で全体の66.2%を占めている。

図5 起因物別の災害発生状況

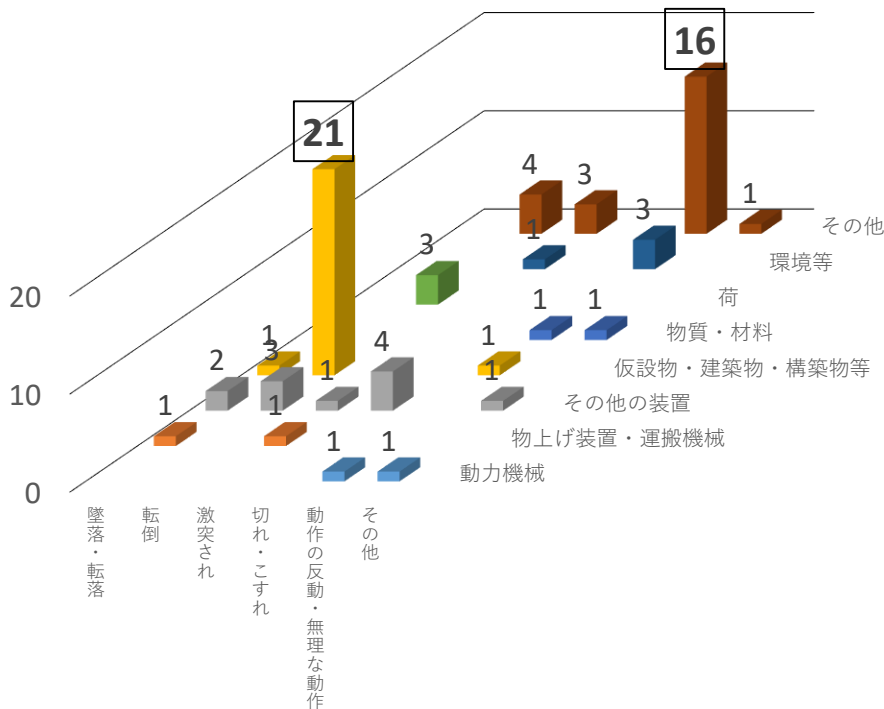
■ H29 ■ H30 ■ R元



## 6 事故の型別・起因物別の災害発生状況（図6）

「仮設物・建築物・構築物等での転倒」が21人（29.6%）が最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作（腰痛など）」が16人（22.5%）となっている。

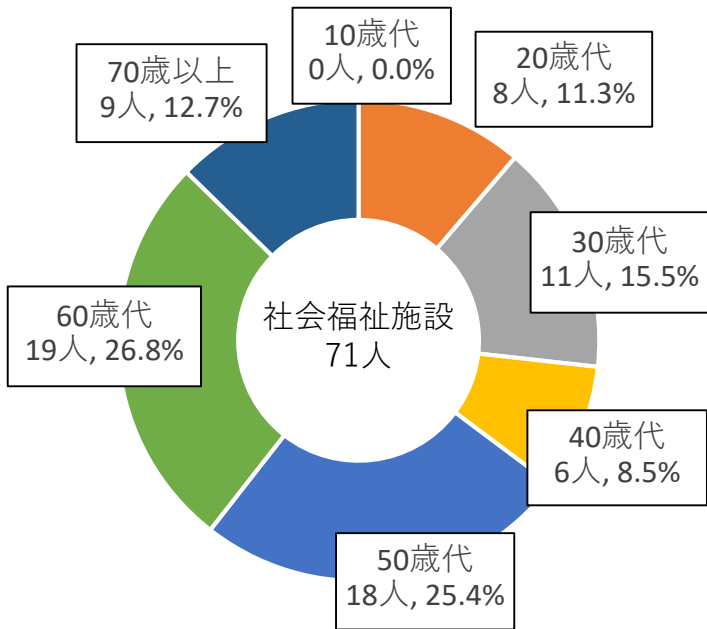
図6 事故の型別・起因物別の災害発生状況



## 7 年齢別の災害発生状況（図7）

全産業（平均）と比べると、50歳以上の高年齢労働者の割合が高く、全体の6割以上が50歳以上が被災している。特に、60歳以上で28人（39.4%）を占めている。

図7 年齢別



参考) 全産業の年齢別

